

企画セッション一覧

9月3日(木) 10:00~12:00

企画セッション I

ワークショップ			
担当者 (WS)	所属	題目	教室
長山 恵子	金沢工業大学	初年次学生に対するプレゼンテーション指導法	28-205
藤田 哲也 中川 華林	法政大学 法政大学	モデル授業公開検討会 (1) : 初回イントロダクション	28-206
田中 岳	九州大学	2030年の初年次教育を考える	28-301
川島 啓二	九州大学	クリティカル・シンキングを育成する初年次教育	28-302
関田 一彦	創価大学	協同学習の考え方と進め方 ~アクティブ・ラーニング時代のグループ学習を考える~	28-303

企画セッション I (9/3 10:00~12:00) ワークショップ 内容一覧

題 目	初年次学生に対するプレゼンテーション指導法
教 室	28号館 205教室
担当者名・所属	長山 恵子 (金沢工業大学)
概要 (内容要旨)	<p>初年次教育においても座学中心の授業からの脱却を図り、グループ討議やグループ演習などを実施し、その結果をプレゼンテーションさせる授業が増えています。プレゼンテーションの実施にあたっては説明内容の充実度を評価することは当然ですが、聞き手に伝えるための技法(話し方や態度、提示資料の作成方法)も重要であることを併せて指導する必要があります。</p> <p>本ワークショップでは、プレゼンテーション技法の説明におけるポイントとその技法を活用するための演習の進め方を理解します。さらに演習を通して学生が自身のプレゼンテーションの良い点と改善点を把握するための評価方法とそのフィードバック方法についても検討します。</p> <p>参加者の皆さんにも実際に演習の一部を体験していただきます。 以下にワークショップの流れ(予定)を示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ウォーミングアップ(自己紹介、アイス・ブレイキングなど) プレゼンテーション技法の説明 <ol style="list-style-type: none"> 内容のまとめ方(ストーリー展開を考える) 話し方 提示資料の作成 プレゼンテーション演習 <ol style="list-style-type: none"> 演習の進め方 評価の仕方
キーワード	プレゼンテーション技法、動機付け、評価方法

題 目	モデル授業公開検討会(1):初回イントロダクション
教 室	28号館 206教室
担当者名・所属	藤田 哲也(法政大学)、中川 華林(法政大学)
概要 (内容要旨)	<p>本ワークショップでは、担当者(藤田)が実際に法政大学で行っている初年次教育科目である「基礎ゼミ」について、実際に模擬授業を行い、授業後に参加者と授業内容や授業運営上の工夫等について意見交換をする。各参加者が、自分自身の授業計画を見直したり、授業の進め方について工夫するための観点を豊富にすることが、本ワークショップの目的である。今回は、ワークショップの前半の時間を使って、年度初めの第一回目の授業を想定した「イントロダクション」を行う。後半では、どのようにすれば受講生に対して「基礎ゼミ」の教育目標を適切に伝えることができ、授業に参加することの重要性を実感してもらえるかについて、理論と実践の双方から議論を行う予定である。参加者の皆様には、前半は受講生の視点を持って授業を受けていただきたい。授業の冒頭のアクティビティが極めて重要であるため、本ワークショップにはできるだけ遅刻をせずに参加していただければと願っている。後半の冒頭では、指定討論者(中川)から、授業をよりよくするための議論を促す、いくつかの論点を提示するので、まずはそれらの論点について全参加者で意見交換をしたい。その後、参加者からの自由な質疑応答も行う予定である。</p>
キーワード	初年次教育モデル授業、授業検討会、気づき、シラバス

題 目	2030年の初年次教育を考える
教室	28号館 301教室
担当者名・所属	田中 岳（九州大学）、立石 慎治（国立教育政策研究所）
概要 (内容要旨)	<p>「2018年問題」に大きな関心が寄せられています。18歳人口が再び減少に転じ、志願者（入学者）減という現実が切実さを増すためです。そして、その先2030年には100万人を切ることが見込まれています。各大学は、いよいよ正念場といったところでしょう。</p> <p>では、2030年度の初年次教育は一体どのようなもののでしょうか。大学間のサバイバル競争という課題はちらつきますが、それを保留し、大学関係者として2030年の初年次教育を考えてみようとするのが、本ワークショップのねらいです。</p> <p>とはいえ、願望や確信からではなく、起こり得る状況（可能性）の吟味がスタート地点になるでしょう。すなわち、現在の初年次教育を動かしている「ドライビング・フォース」のあぶり出しです。2030年を見据えることが、現在を再考することに繋がっていくという試みです。自身の考える（考えてきた）初年次教育へのアプローチを捉え直してみたい方の参画をお待ちしています。</p> <p>〔目標〕ワークショップ終了後には、参加の皆さんが、所属大学における課題解決への道筋を自分の言葉で語るができるようになる。〔役割〕担当者は会場の相互作用を活性する進行に努めますので、参加の皆さんには主体的な活動をお願いいたします。〔過程〕ミニレクチャーとダイアログという対話方法を織り交ぜながら、各参加者が省察する場を設け、最後に会場全体での共有までを計画しています。</p>
キーワード	2030年、組織化（アプローチ）、シナリオプランニング、人口減少社会

題 目	クリティカル・シンキングを育成する初年次教育
教室	28号館 302教室
担当者名・所属	川島 啓二（九州大学）、久保田 祐歌（徳島大学）、池田 史子（山口県立大学）
概要 (内容要旨)	<p>クリティカル・シンキングは、物事を鵜呑みにしないで考えるという認知スキルおよび非認知スキルのことであり、学士課程教育においても、段階的に向上させていく必要がある。</p> <p>従来の初年次教育においては、大学での学習の基礎となるレポートの書き方、プレゼンテーションの方法などのスタディ・スキルの修得や、コミュニケーション力を育成することが重視されてきた。そこへ、クリティカル・シンキング等の思考力の育成を同時に組み込むことも可能ではなかろうか。賛否の分かちがたいテーマを設定し、賛否の両面について、学生に資料を収集させ、主張の強さについて読み解かせることで、資料収集のスキルとともに、クリティカル・シンキングも同時に涵養することができる。</p> <p>学生にクリティカル・シンキングを身につけさせるためには、その基準を伝えるだけでなく、その基準によって他者や自己の取組を評価させることが有用である。本ワークショップでは、クリティカル・シンキングのルーブリックを示し、参加者が賛否両論型のテーマについて学生の立場となって根拠に基づいて主張し、ルーブリックに基づく他者評価・自己評価を行うことで、クリティカル・シンキングを涵養する方法をご体験いただく。</p>
キーワード	クリティカル・シンキング、スタディ・スキル、ルーブリック、自己評価・他者評価

題 目	協同学習の考え方と進め方～アクティブ・ラーニング時代のグループ学習を考える～
教 室	28号館 303教室
担当者名・所属	関田 一彦（創価大学）
概要 (内容要旨)	<p>アクティブ・ラーニングと呼ばれる教育方法が奨励されています。その定義は様々ですが、形態的にはグループを用いた学習活動を重用するのが一般的です。ところが、効果的なグループ活動のさせ方など、グループ学習についてよく分からない状態で試行錯誤なされる先生方もおられるようです。そこで、このワークショップではグループ学習の質を高め、望ましい学習成果をあげる教育方法として、その効果が確かめられている協同学習について体験的に学んでみたいと思います。</p> <p>具体的には、一昨年、昨年と参加者から好評をいただいている内容をもとに、大きく次の3点についてお話しします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングが求められる背景 ・グループ学習の課題と対応 ・協同学習の効用 <p>ワークショップの展開によって用いる技法は変わりますが、シンク・ペア・シェアやラウンドロビンなど簡単にできる技法に加え、二重にグループを使う少し大がかりなもの（たとえばジグソー法など）も扱ってみたいと思っています。</p>
キーワード	アクティブ・ラーニング、グループ学習、協同学習

企画セッション一覧

9月4日(金) 13:00~15:00

企画セッションⅡ

課題研究 シンポジウム			
企画者	所属	題目	教室
関田 一彦 義本 博司 濱名 篤 山田 礼子 川嶋太津夫	創価大学 文科省大臣官房審議 官(高等教育局担当) 関西国際大学 同志社大学 大阪大学	高大接続の新段階における 初年次教育の新たな役割と学会への期待	28-111

ワークショップ			
担当者 (WS)	所属	題目	教室
成田 秀夫	学校法人河合塾	初年次教育の質を高める教員協働を考える：文章表現科目の実践を例にして	28-206
安永 悟	久留米大学	LTD 話し合い学習法	28-205

企画セッションⅡ（9/4） 課題研究 シンポジウム

高大接続の新段階における 初年次教育の新たな役割と学会への期待

課題研究担当理事 濱名 篤

本年度の課題研究につきまして、昨年度の「初年次教育と高大接続」を発展させ、今回会員各位にご協力をお願いしています。会員調査の分析結果とあわせ、上記のようなシンポジウムを企画いたしました。会員の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

企画趣旨：

本学会も設立から8年目を迎え、会員数も着実に増加し、初年次教育自身も日本の高等教育に定着を果たしたといえよう。

他方、日本の高等教育はグローバル化の進行、科学技術の進歩、少子高齢化、格差拡大などの社会的変化に対応した人材養成の在り方を求められている。2012年12月に出された中教審答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（「以下では「高大接続答申」という）」では、高校教育、大学教育、入試の三位一体改革によって、学校教育全体を通じた「生きる力」の育成を実現することが求められ、大学入試の在り方も2020年を目途に大変革が訪れようとしている。

本課題研究では、①学会員が現在感じている課題と学会への期待、②文科行政の立場からの政策と責任、③初年次教育実践をしてきた個別大学の立場から、これからの本学会の果たすべき役割や対応を会員諸氏のアクティブな参加を得て議論していきたい。

登壇者：

- 1) 「大学教育・大学入試・高校教育の三位一体改革をどのように実現していくのか～文部科学省の立場から～」
義本博司(文科省大臣官房 審議官(高等教育局担当) 予定)
- 2) 「高大接続改革に対応した入試と初年次教育へ
～関西国際大学の事例を踏まえ～」 濱名 篤(関西国際大学)
- 3) 「学会会員調査結果から見た初年次教育の現状と課題
～学会としての高大接続改革への対応～」 関田一彦(創価大学)

指定討論者：山田礼子(同志社大学)

司会：川嶋太津夫(大阪大学)

日時：9月4日（金）13：00～15：00

場所：28号館 1階 111教室

企画セッションⅡ (9/4) ワークショップ一覧

題 目	初年次教育の質を高める教員協働を考える：文章表現科目の実践を例にして
教 室	28号館 206教室
担当者名・所属	成田 秀夫（学校法人河合塾）、 中村 博幸（京都文教大学） 山本 啓一（九州国際大学）
概要 (内容要旨)	初年次教育では、レポート作成スキルを習得させる文章表現科目を、初めて担当する教員が多い。また、専門やキャリアの異なる教員と一緒にライティング科目を担当する場合も多い。しかし、教員の教育観や指導観が「暗黙知」化され、お互い齟齬を来していると、上手く進めることができない。そこで、チェックリストを用いて教員の指導観や教育観を確認し合い（チェック&シェア）、教員が協働して「シラバスの作成→教材作成→授業→評価方法の開発」というプロセスをワークショップ形式で体験する。当日は、教材やルーブリックを含めた九州国際大学法学部の先進的かつ具体的な取り組みも紹介する。
キーワード	文章表現、ライティング、教員協働

題 目	LTD 話し合い学習法
教 室	28号館 205教室
担当者名・所属	安永 悟（久留米大学）
概要 (内容要旨)	<p>LTD (Learning Through Discussion) は、テキスト（課題文）を読解する理想的な学習法であり、対話法である。本ワークショップでは、LTDの基本的な考えと実践方法を、具体的な課題文を用いて体験的に理解する。また、大学授業への導入方法についても検討する。</p> <p>LTDは協同学習の一技法であり、個人による予習と集団によるミーティングによって構成されている。予習もミーティングも、LTDの基本的な考え方と手続きが凝縮されたLTD過程プラン8ステップ（雰囲気づくり、ことばの理解、主張の理解、話題の理解、知識との関連づけ、自己との関連づけ、課題文の評価、ふり返り）に沿って展開する。参加者は過程プランにそって課題文を予習し、予習ノートを作成する。ミーティングでは、その予習ノートを手がかりに、仲間との対話を通して課題文の理解を深める。LTDを実践するには、LTDの基盤となる協同学習の考え方と技法の習得が前提となる。本ワークショップは協同学習の初学者も理解できる構成となっている。</p> <p>LTDを獲得すると、PBLやTBLを初めとしたグループを活用した学習の質を高めることができる。また、LTDによる読解力が基盤となり、論理的な言語技術の育成にも役立つ。</p>
キーワード	LTD、読解力、文章作成力、協同学習、授業づくり